

ディプロマポリシー

農学研究科の研究目的“農学の諸分野にわたるフロンティアとして、健全で調和のとれた見識と実力を有する研究者及び高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得向上を図り、生物資源、先端生命、環境科学、アグリビジネス、並びに生物介在療法分野の教育・研究を行うことを目的とする。(大学院学則第1条)”並びに各専攻における教育研究上の目的に沿った教育並びに研究指導を受け、その学位にふさわしい学力、資質と能力を修得した者に修士号、博士号の学位を授与します。

修士課程・博士前期課程においては、博士前期課程又は修士課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科の行う修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士号の学位を授与します。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとします。

※最終試験は、学位論文を中心として、これに関連する科目及び1カ国の外国語について行います。

※当該研究科の目的に応じ当該研究科委員会が適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

博士後期課程においては、大学院に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

なお、林学専攻、農業経済学専攻、国際バイオビジネス学専攻、環境共生学専攻においては、修士課程・博士前期課程において修得した単位のほかに、博士後期課程配当の所定の授業科目について必修、選択必修を含め、林学専攻においては14単位以上、農業経済学専攻においては16単位以上、国際バイオビジネス学専攻においては18単位以上、環境共生学専攻においては12単位以上を修得することが必要となります。

※最終試験は、学位論文を中心として、これに関連する科目及び1カ国語以上の外国語について行います。

※修士課程・博士前期課程をただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、「5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程の2年の在学期間を含む。）」とあるのは「3年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替えて適用します。

学位取得までの流れ

※学位取得までの流れは専攻によって違う場合がありますので、指導教授に確認してください。

修士課程・博士前期課程		博士後期課程	
1年次	①指導教授の決定 ②修士論文テーマ決定・研究計画の作成 ③実験・調査等開始 ④専修分野科目を中心に受講 ・選択必須科目の履修により、専門的知識を身に付ける。 ・選択科目の履修により、総合的知識を身に付ける。 ⑤学会口頭発表準備	1年次	①指導教授の決定 ②研究テーマ決定・研究計画の作成 ③実験・調査等開始 ④学会口頭発表準備
2年次	①実験・調査まとめ ②学会口頭発表会等 ③論文題目提出 ④仮綴論文作成 ⑤主査・副査決定 ⑥修士論文中間発表 ⑦専攻内で論文発表 ⑧専攻内最終試験	2年次	①実験・調査等継続 ②著書・学術論文・研究論文作成 ③学会口頭発表等 ④研究計画の進捗状況の確認 ⑤論文投稿 ⑥博士論文中間発表
↓		3年次	①実験・調査まとめ ②論文投稿 ③論文題目提出 ④仮綴論文作成 ⑤主査・副査決定 ⑥専攻内論文発表 ⑦専攻内最終試験

↓
大学院農学研究科委員会承認

↓
論文製本提出

↓
修了（学位授与）

↓
大学院農学研究科委員会承認

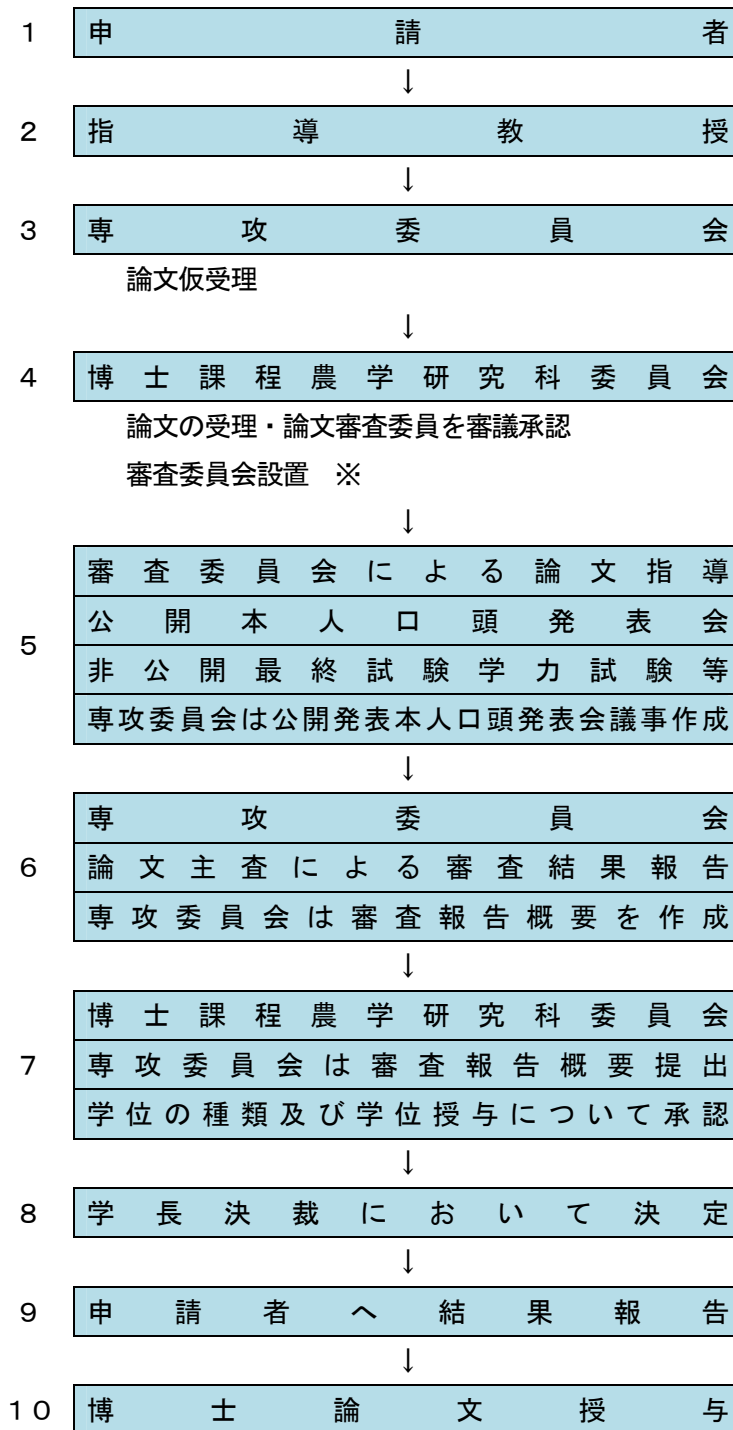
↓
論文製本提出

↓
修了（学位授与）

博士論文学位申請から学位授与まで

博士論文を作成し、審査を希望する場合は、博士論文に直接関連した学術論文2報以上※(このうち1報は筆頭著者とする)が学会や学術協会の査読付き論文集等に公表済みであることを条件にしています。

※公表済み学術論文の報数は専攻によって違う場合があるので、指導教授に確認してください。



※論文審査委員会の構成

論文審査は指導教授1名の主査と、副査として専攻内指導教授はもとより、この他広くその研究分野に精通する指導教授または大学院授業担当者2名以上をもってあたります。なお、必要に応じて、同等の教員および学外審査委員を積極的に加えることとします。

博士論文学位申請について（課程博士）

博士論文の審査を申請するものは、所定の提出書類及び学位請求論文（仮綴）をそろえ、指導教授を経て、当該の専攻委員会に提出してください。

提出書類等

1. 学位申請書 [別紙様式 1] 申請日、住所、氏名（捺印）を記入。
2. 論文目録 [別紙様式 2] 氏名、論文題目を記入。
3. 履歴書 [別紙様式 4 - 2] 氏名は学位記作成のため正確に記入。
学歴は高等学校卒業から年代順に記入。
免許は論文審査上関係するもののみ記入。
5. 論文内容の要旨 [別紙様式 6] 1 頁左上の枠内には、氏名（フリガナ）、本籍（履歴に記載した）及び論文題目のみ記入する。
論文が英文の場合は、和文の要旨も提出する。
6. 課程博士申請様式 [別紙様式 1 3] 著書、学術・研究論文は項目毎に区別し、年代順に記入する。共著の場合著者名は全員の氏名を記入（8 名以上の場合は、主要 7 名の氏名を明記し、他何名とする。）。
論文が和文の場合は英文の要旨を、英文の場合は和文の要旨を最後尾に添付する。
学位授与決定後提出。
7. 論文 2 冊（A 4 版縦形）